

# 戸田東小中学校における 小中一貫校設立についての提言書



平成30年1月

戸田市議会

文教・建設常任委員会

---

## ～はじめに～

---

自治体における小中一貫化の取り組みが始まってから10年以上が経過し、全国の事例からは検証中の課題もある一方、顕著な成果が明らかになってきている。戸田東小中学校における市内初の小中一貫校の設置に対する期待が高まる一方、対象となる児童生徒の保護者の中からはいまだに疑問の声も聞かれており、より一層の理解が求められる状況となっている。

文教・建設常任委員会は、今年の年間活動テーマを「小中一貫教育について」と定め、戸田東小中学校における、より良い小中一貫校の実現を目指すと共に、戸田東小中に続く市内各小中学校における小中一貫校の設立の是非についても検証した。また、各地の先進事例に当たりつつ、戸田市の実情に合わせた提言を行うことを目指した。開設まで限られた時間内ではあるが、提言内容について検討し、教育委員会の専門性を発揮しつつ、児童生徒や保護者、また地域を初めとする市民の期待に応えた小中一貫校の設立を実現する一助としていただきたく要望する。

## 1. 校舎設計について

先進自治体では、十分な時間をかけて学校運営や教育内容を検討し、現場の教職員の声を集め、それらを反映させる努力を惜しまない。また、校舎設計に関する考え方は日々進歩していることや、校舎一体型小中一貫校の設計に特徴的な考え方が存在するようであることから、先進自治体において蓄積されたノウハウを十分に参照し、詳細に至るまで活かしていただきたい。

### 提言

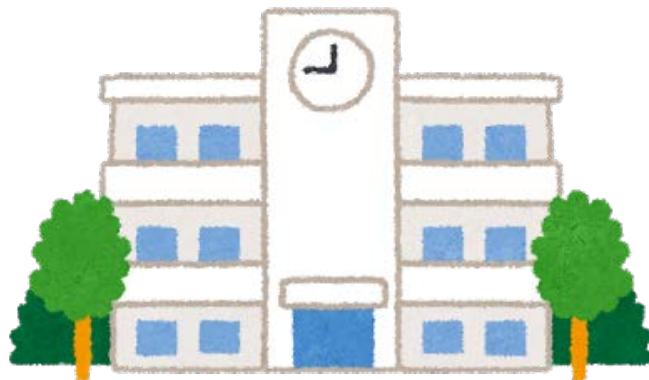
- (1) 教職員の声を十分に反映させること。
- (2) 数多くの先行事例に当たり、最善の校舎設計ノウハウ、小中一貫校設計ノウハウの導入に努めること。
- (3) 運営内容を先行して検討し、十分に反映させること。
- (4) 限られた準備期間を有効に使うため、設計・建設と並行して運営内容や先行事例の検討、設計の検証等を行い、検討・検証結果を最大限、設計に反映するよう努めること。
- (5) 設計の具体的内容について、先行事例における気づきには下記のようなものがある。検証されたい。
  - ①エレベーターについては、ストレッチャーが運搬できる大きさとする。
  - ②小中で共同利用できるものについては一本化し、スペースの効率利用を図るとともにコストを抑制すること。
  - ③年度による生徒数の増減や、異学年交流等の活動に対応するため、教室やスペースの転用を想定すること。
  - ④学校長を2名とする場合、校長室を1室にすることで連絡や報告、情報共有を円滑化すること。
  - ⑤保健室を小中隣接させることによる利点が強く指摘された。小中の各校庭に隣接させる利点もあるが、どちらの利点を優先させるかは今一度、検証願いたい。
  - ⑥インターネット接続環境等、今後のICT技術の進歩を見越した設計とすること。

## 2. 運営内容について

各地の先進事例において、地域の実情に合わせた独自の運営がなされていることが確認された。自治体における小中一貫校の取り組みが始まって以来、これまでに実施されてきた運営内容とその成果を比較・検討し、戸田市の実情に合った内容を作りこむことで、高い効果の上がる運営内容を目指していただきたい。

### 提言

- (1) 小中の教員間や児童生徒の異学年間交流など、小中一貫の長所を最大限引き出す一方、職員の負担増や学校行事の運営などに配慮すること。
- (2) 一貫校設立にともない、学年区切り、小学校の卒業式、乗り入れ学習、授業のチャイム、PTA組織（小中別にするか等）など、様々な課題が発生することが考えられる。従来の常識にとらわれることなく、また先進事例に当たりつつも戸田市の現状に合わせた対応を継続的に検討していくこと。
- (3) 新設校の名称は地域との関係を左右する重要事項である。地域になじみのあるものを軸に、保護者や地域住民等の意向を聴取し検討すること。



### 3. 体制・その他について

小中一貫校を効果的に運営するためには、学校長を初めとするトップマネジメント、教職員、保護者、地域住民、また教育委員会を初めとするサポート体制のそれぞれが学校運営に協力し、力を発揮することが、学校全体として力を発揮するためには不可欠である。そのための体制づくりを検討願いたい。

#### 提言

- (1) 開設準備作業に当たっては、担当者が当事者意識を持って臨むことができるよう工夫すること。例えば、県（教育委員会）と協議の上、開設準備室長に新設校の校長就任予定者を任命し、設計や地域との関係構築等に当たらせることや、新設校の教職員が内容検討を担当することなどが考えられる。
- (2) 学校全体の統括を行うにあたっての、責任の所在や指揮命令系統を明確化すること。文部科学省ガイドラインにおいては、「学校間の総合調整を担う校長を定めるなど、小学校と中学校における教育を一貫して実施するためにふさわしい運営の仕組みが整えられること」の利点が強調されており、学校全体の統括担当者を定めるよう検討すること。
- (3) 開設後の中長期的な児童生徒数の増減を十分に想定すること。
- (4) 教職員、保護者に新設校についての理解を促し、声を反映するよう努めること。構想段階から教員やPTAメンバー等を準備委員会メンバーに加えることや、移行期間中の授業や部活、カリキュラム、設計など保護者の疑問に十分こたえるため、説明会の回数を十分確保することなどが考えられる。



## 4. 今後の展開について

### 提言

- (1) 先進事例においては、施設分離型の小中一貫校が施設一体型の小中一貫校と同様に機能していること、市内全体で小中一貫を導入することによる相乗効果が確認された。戸田市においても早い段階で、施設分離型小中一貫校への全市的な移行を検討すること。
- (2) 市内各小中学校におけるカリキュラムの違いに起因するトラブルを回避するため、平成33年度の一貫校開校以前における全市一体的なカリキュラムの移行を検討すること。
- (3) 中学校区内の各小学校間において、学業水準や指導面の課題など、学校間における内部的な情報共有を密にする「小小連携」を強化し、情報を十分に中学校に引き継ぐ取り組みを進めること。
- (4) 小中一貫教育とコミュニティ・スクールの一体的な導入推進など、義務教育の9年間で地域ぐるみで支える仕組みづくりを検討すること。
- (5) 今後の小中学校校舎の建て替えにおいては、小中一貫教育を意識した設計にすること。また、早期に現場の教職員や保護者を初めとする住民の参加を促し、意見を反映することで、ソフト、ハード両面における改善を図ること。特に、温水プールなど体育施設等の一般市民への開放についても積極的に検討していくこと。
- (6) 委員会における1年間の取り組みを通して小中一貫校の先進事例に当たり、これまでになかった進んだ教育内容に触れる一方、現在も小中一貫教育の長所をより生かすための取り組みが続けられていることが確認された。戸田市における小中一貫教育の推進にあたっては、市内外の多様な意見や最新の取り組みを聴取、検証し、それらを生かすことで、より良い内容のものを目指していただきたく要望する。



## 先進事例



幅の広い大階段は、展示や発表の場としても活用ことができ、児童生徒の交流を促す空間となっている。(池田市ほそごう学園)



児童生徒の体格差に配慮した手洗いシンク。  
(池田市ほそごう学園)



小学生でも中学生でも使用できる教室となるよう、高さの調節が可能な黒板を設置している。(池田市ほそごう学園)



学年区分を意識できるよう、階層ごとにテーマカラーを定めている。  
(池田市ほそごう学園)



中学生と小学生と一緒に給食を食べることができる広さのランチルーム。  
(箕面市彩都の丘学園)



小中一貫校の温水プールを地域に開放。  
※品川区スポーツ協会ホームページより  
(品川区日野学園)



文教・建設常任委員会

委員長	酒井郁郎
副委員長	高橋秀樹
委員	むとう葉子
委員	馬場栄一郎
委員	斎藤直子
委員	手塚静枝
委員	山崎雅俊